

進上

安政二卯年十一月廿八日
役人 印

(第五資料 甲)

一表

(註一)
(註二)

右者当浦百姓共打続く不漁に付難波仕候に付書面之
通正表并借仕度奉願候。右願之趣被寫_二仰付_一被下候
以_レ難有仕合可奉存候。依奉願候処如件

慶応三卯年二月九日

三役人 印

(第五資料 乙)

奉差上表并借御請証文之事

一表 (註二)

右者当浦百姓共打続く不漁に付難波仕候に付書面之
通正表并借仕度奉願候。右願之趣被_二仰付_一難有仕
合奉存候。尤返上之義以当秋急度返上可仕上候。依
御請証文奉差上候。右日書面之通御座候。依_レ此段
御断申上候。以上

卯二月十日

三役人 印

進上

(註一)「奉願口上書」が首分れ「進上」と書かれてない。
(註二)「甲」乙共表の数量が書かれてない。
(終)

研究

佐伯と国木田秋歩 (二)

一 招魂所

會員 山 木 保

○白井市

白井公園に、次のような記念碑が走っています。

(正面文字)

勤皇 白井隊之碑

(裏面文字)

明治十年六月一日薩軍三千白井ニ迫ル。

旧白井藩士八百之ヲ激撃シテ利アラズ。死スル者

四十三。

當時、薩將西郷ノ勢望天下ヲ圧シ、人皆帰趨ニ

迷フノ時、白井藩士ハ克ク順逆ヲ誤ラズ、必死ヲ期

シテ寡ヲ以テ衆ニ敵ス。

其ノ勤皇ノ精神ト悲壯ノ決意トハ、燦子鬼神ヲ哭

カシム。

郷党ノ有志將勇ニ鑑ル所アリ。

茲ニ碑ヲ建テ、以テ其ノ忠烈ヲ後昆ニ貽サントス。

昭和十七年六月

白井隊義戦頭彰会

戦死者片切八三郎

遺腹中根貞彦 撰並書

(註) 戦死者著名片切八三郎(外四十二名)の名前が刻みこま
れています。

西南の役後数か月にして、四十三名の戦死のため招魂社が白根公園内に設けられ、以求春社の二回も祭が行なわれ
てきました。

なお昭和十七年、白根藩士の忠烈を記念した「勤皇回
存隊之碑」が建てられました。

中根貞考の父剣豪片切八三郎は、西南の役で十数人
の薩摩軍人と腹背に受けて奮戦しました。持て余した
薩摩軍は、遂に鉄砲を片切八三郎に浴びせて倒しました。
父の壮烈な戦死を遂げた翌年の、明治十一年二月四日中
根貞考は生まれました。

貞考を産んだお母さんは、三兒を抱えて菰葱となり、
貞考三才の時に他界しました。そのため、貞考は両親の
顔を知らないまま成長し、元氣無散、そして小学校卒業
と同時に、佐治市中根(祥胤)家へ養子入をいたしました。

○竹田市、三重町

竹田の町で、田中川藩士が薩軍に加担しないため、激
怒した薩軍は、竹田の先に火をつけて各家に放火し、町
家を全部焼き払ってしまいました。

弥生町大向、高司幸太郎二等兵(二十四才)は、五月
三十一日三重町で戦死しました。

三重町三國峠では、薩軍と官軍の間で激しい攻行戦が
展開され、六月十七日官軍の夜襲を受け大日向敏肥士族
十一名(薩軍に属し隊長山田宗賢等)は、壮烈な戦死を遂げま
した。

(註)

三國峠にある西南の役で戦死した人たちの石碑は、現
在訪れる人々なく朽ちばてようとしています。

見るに足かぬ大宇目町千束の前田利麿医院長(平六)
は、遺族の方々に呼びかけて供養をしようとしています。

前田医院院長は鹿兒島の出身。西南の役で、祖父が熊本
県の田原坂で戦死しました。田原坂には慰霊碑へ田原

坂崇恩碑が立ち、毎年参拜する人も多いのには比へて
荒れ放題になっている三國峠の墓石を見て、供養しよ
うと思いたつたそうです。

前田医師の善意は、頭が下がります。

大分合同新聞の記事より。

○佐伯市

薩軍三百余名が侵入した佐伯の町では、旧士族の一部
(四十人)が薩軍に協力したため、放火をまぬがれ、焼
野が原にならずにすみました。

然し薩軍に従軍した佐伯士族のうち、十一名は戦死し
ました。戦いが終つて帰つて来た旧士族は、罪に問われて禁
固の刑に処せられました。その空屋は三の丸の櫓門(黒
門)の二階でした。彼等の家族たちは、毎日櫓門の櫓
子を登つて、父や夫に自前の食事(弁当)を運んだとい
われています。

その中の一人楠某(剣客)は六尺余の大男でしたが、
薩軍にとりかこまれ、まるごりのまま、敵陣で談判しま
した。そして薩軍の放火をふせぐため従軍しましたが、
戦後帰還して、二年余り空屋にたがれていたそうです。
思えば彼等(楠某もその一人)は、佐伯の町を救った
恩人といつても過言ではないでしょう。

佐伯招魂所へ通する道路(日豊本線踏切り付近)に、左の
ような標識塔が建てられています。

(正面文字)

史蹟 岡の谷招魂所

前方約一〇〇米、杉木立の中

西南の役官軍戦歿者埋葬地

(右側面文字)

明治十年西南の役に際し、豊日国境地帯で激戦が展
開され、宇目町の黒土峠、蛇葛山、直川村の陸地峠、
蒲江町葛原の津島畑山等、官軍薩兵共多くの戦死
者を出した。

この招魂所の墓地には官軍の將兵百三十四柱、警察
官十四柱の英靈が眠っている。

(今より九十三年前のことである。)

(裏面文字)

昭和四十五年十一月 佐伯市役所 建立
佐伯史談会

また、招魂所入口に一對の奉燈(石燈籠)が聳え立って
います。そしてその台石に寄附者の芳名が次のように刻
まれています。

(向つて古の奉燈台石)

佐伯士族 山口正定、高瀬朝宗、關谷 壯、柳川八
郎、中根祿胤、保田 新、高妻政吉、國矢直理、大
石圭一、長溝 亨、遠城寺邦彦、山中盛太郎、齋藤
覚、佐久門仲、高妻善道、中津苗道太郎(以上十六名)

(向つて左の奉燈台石)

佐伯士族、齋藤才助、羽石 寅、日置 泉、山口
伝、首藤無逸、中根貞介、遠城寺宗重、楠 文蔚、
奥井春水、袋野直記、山名勇記、関 賢一、薬師寺
黙、高瀬宗明、岡野重吉、西名 漸(以上十六名)

(註) 台石の裏面には「上降建設局、明治十一年八月」の文字が
あります。

この奉燈寄附者に中根祿胤、白井公園内の勤皇白井隊之
碑文様並書に中根貞考、親子の文字が見出されることは、興味
深いことです。

奉燈寄附者合計三十二名(佐伯士族)は、当時佐伯一流の知
名士だつたと思われます。

独歩の作に「欺かざるの記」の中に、中根祿胤、山中盛太郎、
日置泉、「鹿角」の中には中根祿胤、遠城寺邦彦、長溝
亨、奉燈寄附者の人々が登場しています。

招魂所内、次のような説明板が設けられています。

文化財 史跡

佐伯 招魂所 (陸軍墓地)

明治十年(一八七七年)二月、薩摩の西郷隆盛は私学校の
生徒を擁して兵を催し、熊本城を囲んだ。世に言う西
南の役である。

やがて、戦場は豊後に及び、七、八月に亘つて陸地味
をはじめとする豊日国境の山岳地帯で、壮烈極まりな
い死闘が展開された。ここには、その際戦陣に歿した
官軍の軍人軍夫百三十四柱、警察官十四柱の戦死者を
葬っている。

戦死者の出身地別

山口県二九名、福岡県二五名、和歌山県一名、
熊本県九名、石川県二四名(以下略)

戦死した戦場別

大野郡(現宇目町)蛇島山二二名、直川村陸地味二
一名、滝江所葛原津島細山二一名、宇目町黒土峠一
七名、宮崎県三川内二一名、佐伯病院(戦死者)七
名(外略)

昭和四十五年八月 佐伯市教育委員会

「欺かざるの記」より

明治二十六年十月二十四日

本日昼飯前、独り外出、招魂場(白井)の石上に坐し沈
思するとこゝろあり。

明治二十七年三月三十日

郵便を出しに行き、しついでに收二(弟)を伴うて叢歩を
試み、城山の後をめぐり、例の八幡社の幽境を探り、
例の中の坂の葦蕭を呼吸し、例の招魂場の谷間に出で
て、遂に招魂場に至り梅花を賞す。

生徒諸子（鶴谷学館）を伴い、招魂所の桜花、夕陽に輝き居るを見て、往いて見物す。

同 四月三日

收ニと共に招魂場に散歩す。梅花の美しさを感ず。

(註) 独歩は古くは招魂場に散策を試みています。

その昔、陸軍墓地は佐伯新氏の聖地でした。春季皇霊祭の日には参拜して、梅の下で「君が代」を斉唱し、秋季皇霊祭当日は紅葉の下で「海行かば」の曲を合奏して、その英霊をたたえたりします。

同境内には敵愾の碑（陸軍大将一品大勲侯織仁親王顯朝、正六位數四年秋月新太郎換併書）と、東京警視隊戦死之碑（中村正直撰、大庭永成書）が建てられています。

○大分市

大分市牧の松栄山（県護国神社）は、大分新産都き一望に眺めることができる、すばらしい場所です。

その展望台のそばに、次のような説明板が掲げられています。（正面文字左の通り）

西南の役墓地

この墓地は、明治十年西南の役の際、竹田、三重、重岡、臼杵方面の戦鬪、ことに三回峠、旗返峠、黒土峠、梓峠、陸地峠等に於て戦死した大分、福岡、熊本、石川、鹿兒島、和歌山、長崎、愛知、島根、広島、兵庫、岐阜、三重、長野、大坂、茨城、滋賀、岡山、千葉、愛媛、東京、青森、福島、高知、秋田、山梨の二十七都府県出身の将兵二一四柱を埋葬してあります。

西南の役は、明治維新の諸矛盾と不逞武士の反抗とが重なった内戦であつたと云われていますが、新日本のおかげで、あたら犠牲となつた英魂に感謝しましう。

昭和四十六年仲冬

文 護 国 神 社 司
贈 大分中央ライオンズ・クラブ

同境内には東京警視隊戦死之碑（佐伯招魂所の碑文と同じもの、明治十一年十月五日建）が建立されています。

また戦死した警部藤丸宗造、四等巡査土屋幸六郎、佐伯普士、准巡査岩崎共作をたたえた記念碑（毛利 撰書者 明治十二年十二月建）もありません。

(註) 藤丸宗造警部は五月二十三日竹田で、土屋幸六郎巡査は四月一日高野山で、佐伯普士巡査は五月十二日重岡で、岩崎共作は巡査は六月十四日高野山で、それそれ壮烈な戦死を上げています。大分県内で、三等大警部藤原君貞配下の巡査は陸軍と戦つて戦死者五十人、負傷者百三十一人を出しました。いかにすさまじい戦いであつたかが推察されます。（おわり）

(ナニページよりつづく)

度か流路が愛り、地元民は水害に苦められた。

大川庵の西、竹藪の中は水島神社と刻んだ石祠がある。府坂の川の河童を祀つた祠らしいが、河岸の各所にある水神祠とも、水と農民の関連するものが左についている。波越、石打、府坂、西野、竹角、桐野、これら堅田川流域の各部落は、古来から地藏信仰が盛んだったようである。佐伯市内の他地域で見ることの出来ない六地藏塔（石幢）が数か所があり、寺庵には多く延命地藏を祀っている。

地藏祭祀、水神祠、水難——滯途にいた私は、どこかで関連している俗信仰の姿相を思い浮かべていた。

(この項終り)